

領域横断事例演習における学生の気づきに関する研究のお知らせ

帝京大学医療技術学部では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2023年10月24日～2025年3月31日

〔研究課題〕

病院から在宅への移行支援能力を養う領域横断事例演習における学生の気づき

〔研究目的〕

領域横断事例演習を通して学生にどのような気づきがあったのかを明らかにします。

〔研究意義〕

学生の気づきの様相が明らかになることにより、領域横断事例演習によって「多様なケア環境とチーム体制に関する実践能力」や「地域で生活しながら療養する人と家族を支援する能力」が養成されたかどうかを検討することができます。また、教育方法を改善するための一助となります。

〔対象・研究方法〕

2023年4月～7月に「成人看護援助論Ⅱ」と「在宅看護援助論」を受講した帝京大学医療技術学部看護学科3年生115名が、領域横断事例演習実施後に提出した振り返りシートを研究対象とします。「模擬退院前カンファレンスによる気づき」と「領域横断事例演習による気づき」の内容を読み取り、サブカテゴリ・カテゴリを生成します。

〔研究機関名〕

帝京大学医療技術学部看護学科

〔個人情報の取り扱い〕

学会発表を行う際は個人の氏名を公表することはなく、出席番号や学籍番号とは関係のない整理番号を用いて分析を行います。振り返りシートと電子化したデータは学会で成果公表後、10年間保管し、その後廃棄します。研究への参加は自由意思に基づきます。「成人看護援助論Ⅱ」と「在宅看護援助論」は単位認定が終了しているため、参加を辞退しても成績に一切影響しません。また今後の学生生活において不利益を被ることはありません。

対象となる学生で、ご自身の振り返りシートの使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、11月21日までに下記の問い合わせ先まで電子メールでご連絡下さい。辞退の連絡がない場合は、研究参加に同意していただいたものとみなします。ご協力よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先

研究責任者：南川雅子(教授)

研究分担者：角田こずえ(講師)、遠藤寛子(准教授)、瀧田結香(准教授)、前田直宏(助教)、福士泰世(助教)

所属：帝京大学医療技術学部看護学科

住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1211〔内線 41913〕 e-mail:m-mnmkw@med.teikyo-u.ac.jp